



「SOMPOパラリンアートカップ2020」開催概要障がいのある方を対象に、スポーツをテーマとしたアート作品を募集するアートの祭典「SOMPOパラリンアートカップ2020」が開催されました。本コンテストは、前身である「パラリンアート サッカーアートコンテスト」から数えて5回目の開催となり、2020年はすべてのスポーツを対象テーマに拡大。

障がいのある方々を対象に、スポーツをテーマとしたアート作品を募集する「SOMPOパラリンアートカップ2020」が開催され、全国から合計778点の応募が寄せられました。審査には、元サッカー日本代表の北澤豪さん、お笑い芸人のしずちゃん（南海キャンディーズ）、元なでしこジャパンの丸山桂里奈さん、アテネ五輪金メダリストの野口みずきさんなどが参加。

多彩な視点から作品を選考しました。パラリンアートカップ事務局では、全応募作品を対象に厳正な審査を実施し、51点が2次審査を通過。武蔵野美術大学油絵学科名誉教授の遠藤彰子審査委員長のもと、グランプリを含む上位入賞作品を決定しました。さらに、サッカーなどのプロ競技の現役選手による「各選手会賞」や、『キャプテン翼』の作者・高橋陽一さんをはじめとする著名人による「審査員個人賞」など、様々な視点からの特別賞も選出されました。

グランプリ



優勝

久野浩太郎（大阪府）

審査委員長講評: 作品を通して、会場の熱気と興奮が伝わってきます。私は、試合が始まる前に、応援しているチームが歓喜の瞬間に包まれる姿を想像し、勝利を固く信じるような気持ちを表現したのかなと解釈しました。俯瞰的な視点で描かれた構図の面白さと、観客の姿がとても丁寧に描かれている点は、大きな魅力と今後の可能性を感じさせます。グランプリに相応しい見事な作品です。

受賞のことば: 公募に参加するのは初めてでしたので受賞するとは考えておらず、一報を聞いても実感がなく淡々としていたのですが、周囲の方々や尊敬する方が自分のことのように喜んで下さったので、応募して良かったとうれしくなってきました。僕は作品自体の魅力で面白味を感じてもらえるような絵を描けるようになることを理想としており、評価されたことはありがたい思いながらも、もっと良い作品を描けるように頑張っていきたいと思っています。

準グランプリ



魂のひと漕ぎ

ティンくん（茨城県）

審査委員長講評: バランスを保とうとする選手に対して、激しい水の流れが襲い掛かります。ゲートとパドルを垂直に配することに対して、水の流れは左から右方向へと流れており、互いの力が拮抗しているような緊張感を生み出しています。しぶきのアクセントと青の調子の幅がとても美しい作品です。

受賞のことば: 準グランプリ受賞と初めて聞いたとき、驚きとうれしさでいっぱいになりました。今回はカヌーを絵で表現するにあたって、いかに躍動感を出せるかを考えました。アクリル絵の具を何度も重ねて描きました。特に水しぶきや波などの水を表現するのが難しかったです。今回の受賞でとても自信になったので今後の活動につなげていきたいです。そして今後もこの絵が見てくださる方に元気と勇気を与えてくれる絵であってほしいと思っています。

準グランプリ



平和の燈

marumi（埼玉県）

審査委員長講評: ギリシャ・オリンピアの太陽光で採火された炎が、リレーによってつながれ、聖火台に灯されるまでを一つの画面で表現しています。オリンピックシンボルの色を意識して描いたのでしょうか。その鮮やかな色彩が暗めの輪郭とあいまって、聖火のもたらす希望の光が、人々を照らしだしているように感じられました。聖火の流れを自然な形で一つの画面にまとめあげている点を高く評価しました。

受賞のことば: このような賞をいただき、大変うれしく思います。本作では、聖火リレーを題材に、人と人との絆、そして、平和を願う気持ちを描きました。聖火の灯火はオリンピアの地から始まり、国や人種、時代を超えて人々をつなぐ希望の光だと感じています。そのエネルギーを、平和を願う人々を照らし、絆と想いをつなぐ象徴として明明と力強く描きました。これからもさまざまな作品を制作し、自らの想いを表現し、伝えていければと考えています。



審査員特別賞

審査員特別賞



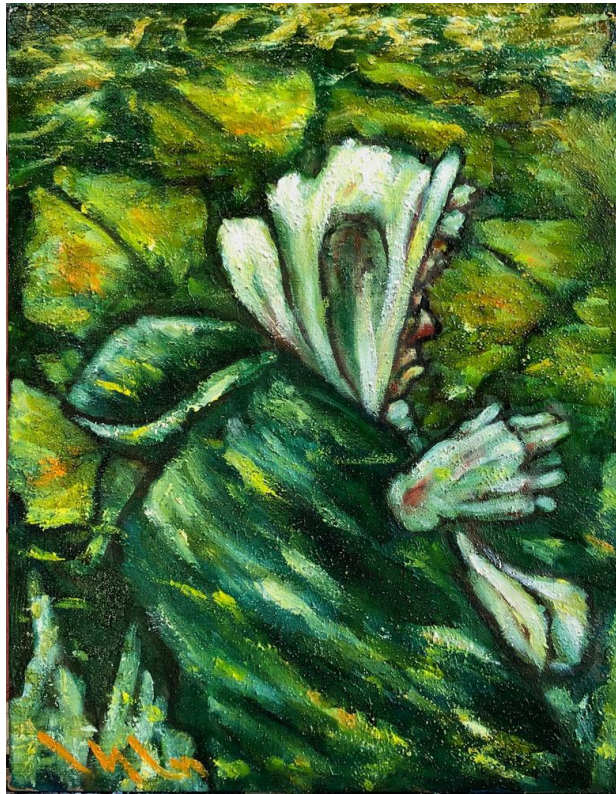
関わり合い

永田琴弓（東京都）

審査委員長講評: 泳いでいるのか、走っているのか、競っているのか、踊っているのか？ オールオーバーな画面で、その抽象性の高いフォルムによって、いろいろな競技の選手たちの姿が想起されます。眺めながら、いろいろな思いを巡らせることができる、とても楽しい作品です。

受賞のことば: 「障がいのある選手」ではなく「ヒト」として描きたいという思いがあり、あえて抽象的にすることで、障がいの有無を感じさせず 「これは人間かな？」 「なにをしているのかな？」と想像をふくらませるような作品を目指しました。このヒトたちは選手として競い合っているかもしれない。もしくはボランティア活動で助け合っているかもしれない。あるいは何かをかけて奪い合いをしているかもしれない。そんな思いを巡らしているうちに「関わり合い」というキーワードが浮かび上がりました。とてもいい機会になったと思います。

審査員特別賞



祈り

安田晋司（風司やん＝青森県）

審査委員長講評: 雨の中で影ながら応援し、密かに思いを寄せているような人物の姿に興味を引かれました。スポーツの華やかなイメージではなく、見る者の内に秘めた思いを描こうとした点は、他にはない独自の視点だと思います。厚塗りした絵具のテクスチャー感も魅力的です。

受賞のことば: 作品は力強いタッチで独自の心象風景を表現する。人物はデフォルメされ、荒々しい色使いで、一見不気味な印象を受けるが、絵に対する真剣な思いがにじみ出てくるような味わいがある。私の夢は画家として自立すること。「私には絵しかない。もっともっといい絵を描いて、個展とかインターネットを開きたい」という思いです！

審査員特別賞



雪煙

323ちこたん（福岡県）

審査委員長講評: 選手をシルエットのようにすることによって、雪しぶきを上げながらカービングターンをする臨場感と迫力が上手く表現されています。高い技術に裏打ちされた描写力に感心いたしました。全体的に中間的な明度で描かれていますが、白や黒い部分を少し広めに差し込むと、より力強い画面になると思います。今後の活躍に期待しております。

受賞のことば: 日頃は身近な風物の好きなものを好きなように描いていますが、病状の進行にともない、スケッチに出かける頻度も少なくなってきました。創作活動もままならない状況のなか、パラリンアートに登録させていただきました。テーマ作品は苦手とするところで、この作品は水彩絵具を使用していて、塗っては洗い落としなど、自分の持てる技法を駆使しながら描きました、思い描いたものに少しは近づけたのかなと思います。

審査員特別賞



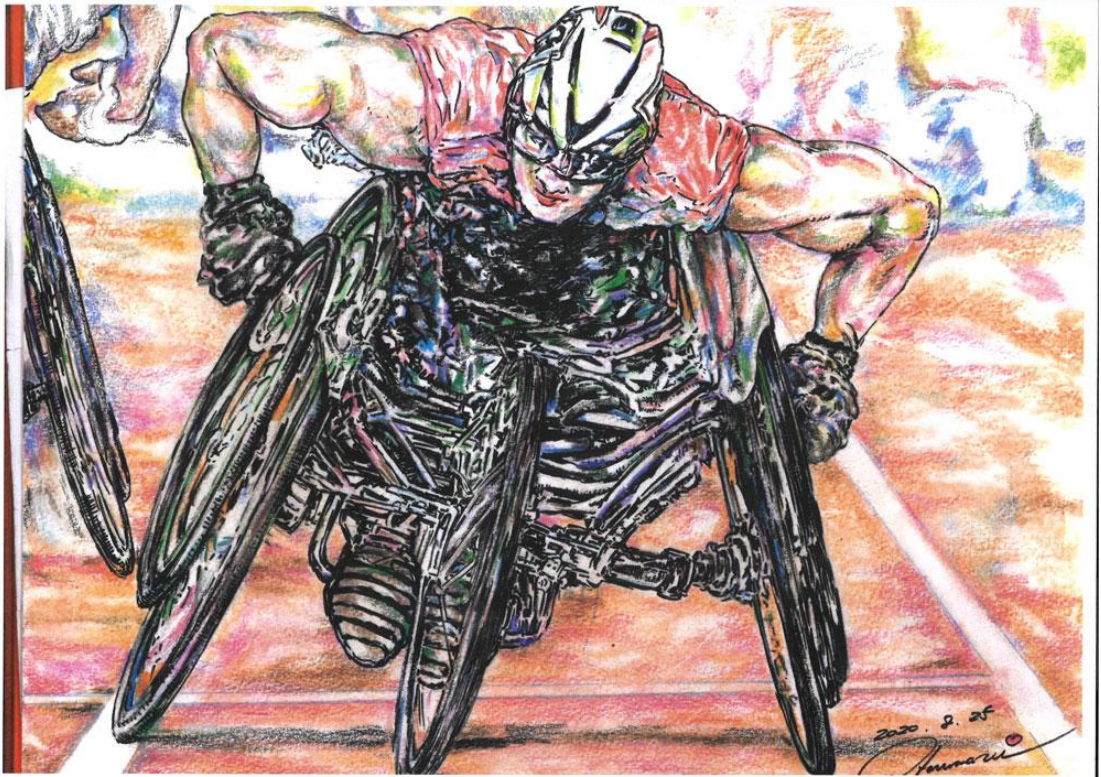
得意なドリブル、勝利のゴールへ

肥塚桃香（埼玉県）

審査委員長講評: サッカーをプレーする選手に躍動感があり、ボールに向かう気持ちやが伝わってくるかのようです。オフザボールの選手の動きも面白いと思います。人体のフォルムの独自性や競技場の空間がしっかりと意識されている点も高く評価いたしました。

受賞のことば: 今まで何度かパラリンアートカップで絵を描かせてもらいましたが、サッカーは描いたことがなかったので今回挑戦してみました。ゴールを目指しているときの選手のドキドキや観客のワクワクを表現してみたいと思いました。受賞できたことは信じられませんが、とてもうれしいです。また機会があれば参加させてください。ありがとうございました。

審査員特別賞



軋む剛腕 呻く剛腕

HARUMARU♡（岡山県）

審査委員長講評: 車いす陸上の選手を画面いっぱいに入れることによって、インパクトの強い作品になっています。太い腕で車輪を回し、加速していく姿は、蒸気機関車が迫ってくるかのような力強さが感じられました。

受賞のことば: コロナ禍の重苦しい空気を吹き飛ばす様にパラリンアスリートの鍛え上げられた上腕の筋肉が車椅子の車輪と一体化し滑走する場面を描いてみたかったのです。



選手会賞

日本プロサッカー選手会賞



優勝

久野浩太郎（大阪府）

受賞のことば:

公募に参加するのは初めてでしたので受賞するとは考えておらず、一報を聞いても実感がなく淡々としていたのですが、周囲の方々や尊敬する方が自分のことのように喜んで下さったので、応募して良かったとうれしくなってきました。僕は作品自体の魅力で面白味を感じてもらえるような絵を描けるようになることを理想としており、評価された事がありがたく思いながらも、もっと良い作品を描けるように頑張っていきたいと思っています。

日本バスケットボール選手会賞



羽撃く

花守洸果（北海道）

受賞のことば:

ご連絡を頂いたときは去年より上を目指していたので大変うれしく、頑張った分が実ったことが本当に幸せなことだと思いました。今回は人種差別問題を題材にしました。スポーツの世界は多くの選手から夢や希望や感動をいただくことができます。一人ひとりの選手が輝ける舞台です。違うからこそ個性が輝き、違うからこそ人が人であり魅了されるのだと思います。心温かく優しい世界で誰もが平等に希望を持ち羽ばたける平和を願い描きました。

日本ラグビーフットボール選手会賞



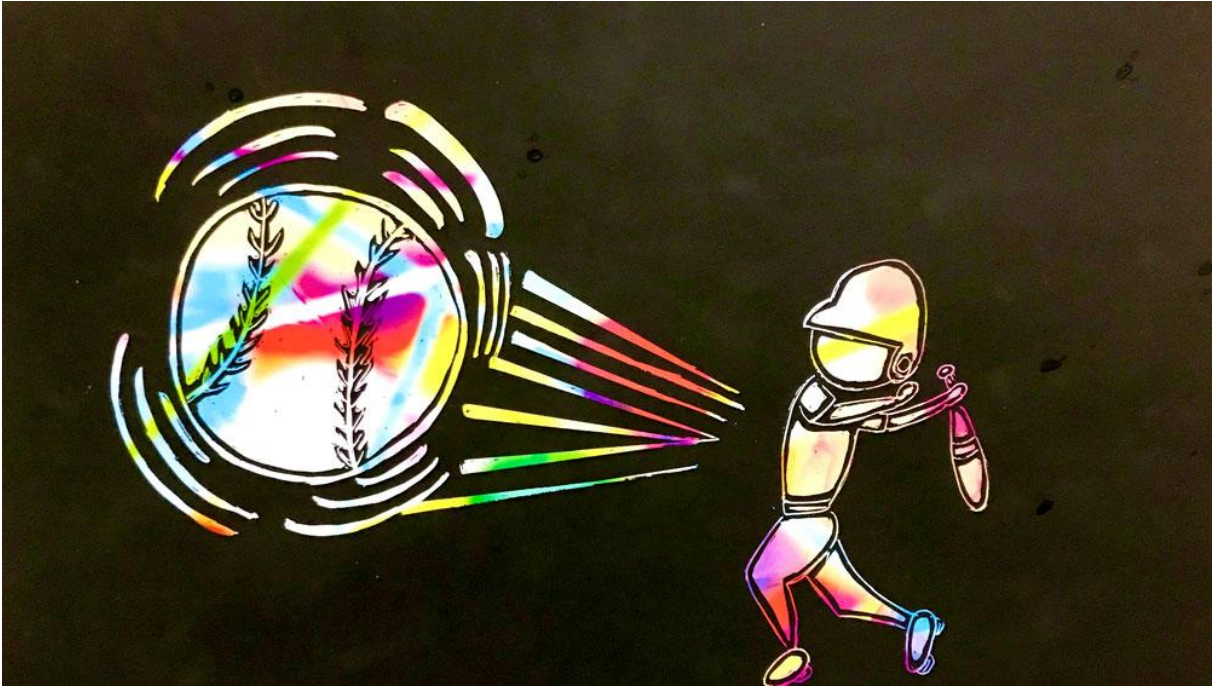
Burning !

猪野兼士（大阪府）

受賞のことば:

テーマが「すべてのスポーツ」ということで、今まで描いてきたアスリート画よりも大きなサイズで描きたく、思い切って挑戦しました。ラグビーはボールの奪い合いで相手チームに恐れなしで向かう闘志あふれる姿が印象的で、特にラインアウトでのシーンは、立ち昇る炎のような迫力を感じます。また、日本代表チームの赤と白の縞模様のユニフォームカラーもイメージにあり、より燃え上がる炎と闘志を感じ取っていました。初めてのパラリンアートカップで受賞をし、うれしさと驚きでいっぱいです。本当にありがとうございました。

日本プロ野球選手会賞



カッキー

あいな（埼玉県）

受賞のことば:

プロ野球選手会賞を受賞して大変うれしく思っております。今回から野球がテーマに含まれるということで、なじみのある野球でスクラッチアートという手法で描きたかったので、賞をいただいたとの一報で飛び上がるほど、うれしく感動いたしました。ありがとうございました。



個人賞

高橋陽一賞



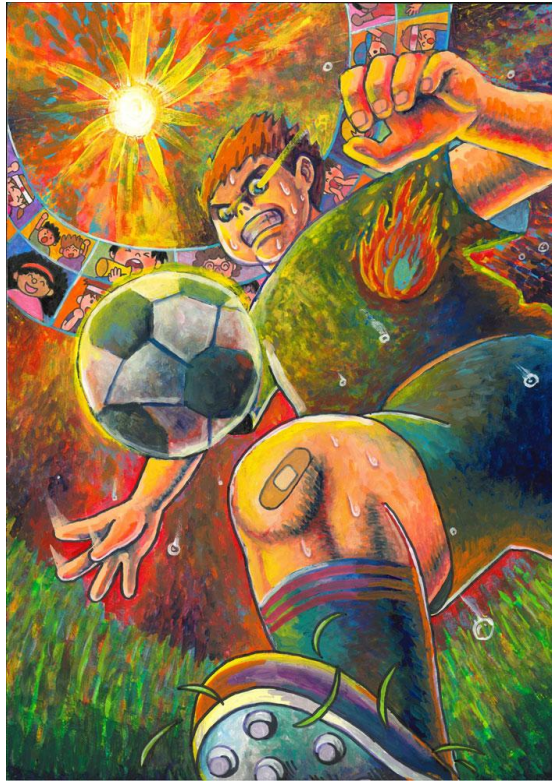
動物達のマラソン大会

長谷部航輝（埼玉県）

受賞のことば:

「動物達のマラソン大会」の絵が高橋陽一さんの賞をいただきましたとのこと、ありがとうございます。とてもうれしかったです。この絵は、陸や水の中で生きる動物達がゴールに向かって走っている姿を描いています。空と陸から沢山の応援団に見守られ、走るのが得意な動物やのんびりと走る動物達が楽しみながら走るマラソン大会です。すべての動物達を応援しながら、この絵を見てもらえると嬉しいです。

北澤豪賞



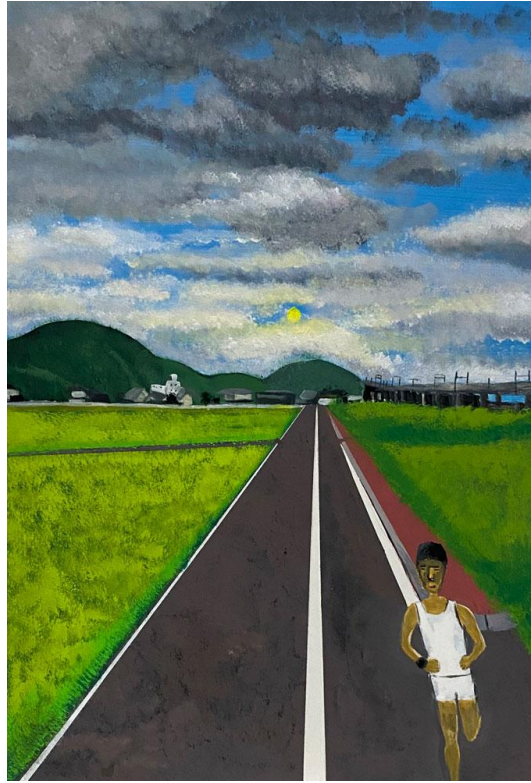
みんなの声援がエネルギー！！

NAMY（愛媛県）

受賞のことば:

北澤豪賞に選んでいただきまして本当にありがとうございます。北澤さんに絵を見ていただけてとってもうれしいです。この絵はみんなの声援がエネルギーになって選手を後押ししている場面を絵にしました。迫力と動きのある絵にするために構図やボールの位置を決めることにとても悩みました。コロナ禍でサッカーやスポーツをしている人たちがとても大変な思いをされていると思うので、何も気にせずスポーツを楽しめる日が一日でも早く来てほしいです。

しずちゃん賞



自分との戦い

DK（滋賀県）

受賞のことば:

作品は夏の終わり頃に描きました。最初は無理だけど挑戦してみること
に価値があるという軽い気持ちでした。昔走ってた田舎の写真があり。
そのスポットに足を運びました。現地に着き、どの場所で撮ろうか、
ぼーっと眺めていました。すると、犬連れの人が珍しそうにしてみました。
犬が何か教えてくれていると確信し、その位置に行き写真を撮りました。
初めての風景画でしたがYouTubeなどを見たりして描きました。出来上
がってから祈りを捧げました。昨年に続いてしずちゃん賞をいただきあ
りがとうございます。誇りに思います。

ブラインドサッカー賞



みんなでスポーツ、楽しいな！

如月虹（和歌山県）

受賞のことば:

元気なニワトリが暴れまわるようにサッカーをしている、その周りにも真剣に、そしてエネルギッシュにスポーツを楽しむ人や動物たちを描きました。パワフルな絵になったと思います。昨年、審査員の寺西さんは、「どうやって絵を選んでいるのか？」という問いに「説明してもらって、それを想像している」とおっしゃっていました。今回の私の絵は、寺西さんの心にどのように映し出されたのか一度お聞きしたいな、描くときのエネルギーが届いたのかな、と思っています。

若月佑美賞



がんばる

崎山雄三（沖縄県）

受賞のことば:

思いもかけない若月佑美賞、ありがとうございました。昨年に続き2度の受賞となりうれしくありがとうございます。次も賞をうけとれるようにがんばります。

丸山桂里奈賞



みんなでスポーツ、楽しいな！

如月虹（和歌山県）

受賞のことば:

丸山桂里奈賞をいただき、とてもうれしく思います。桂里奈さんには、昨年も絵をほめていただき、今年は賞に選んでいただいたので、とてもうれしいです。この絵を描くときにまず浮かんだのが、ニワトリが暴れまわるように元気にサッカーをしているシーンでした。なので、サッカーをするニワトリをメインにすることにしました。そこから、いろんな人と動物がそれぞれに好きなスポーツを楽しむ場面が浮かびました。大きな木のある明るい広場で、みんなでなかよくスポーツしている姿が思い浮かんだので、それを絵にしました。スポーツをする人・動物たちのエネルギッシュな動き、パワー、真剣さを伝えたくて、その思いを絵にこめました。

野口みずき賞



陸上競技場

You-ki（長野県）

受賞のことば:

野口みずき賞をいただき、まことにうれしく光栄に思っております。今年で20歳を迎えた作者は自閉症で知的障がいがあります。彼が養護学校に通っていた頃、地区の障がい者スポーツ大会で1,500m走に出場する事となりました。障がいのためか、歩行バランスも悪かったのですが、それを機に運動オチの父と一緒にランニング練習をはじめ、そのおかげで彼は毎年1,500m走に出場し、父親の私は毎年フルマラソンに出場できるまでになったのです。彼が出場したスポーツ大会会場が作品のモチーフとなっています。下書きなしの油性ペン画に色鉛筆を丁寧に塗り込み、とても色彩豊かに描かれ、どこかユーモラスで楽しく走れそうな陸上競技場となっています。（You-ki 父）



人賞

入賞



ラグビー！！

Ryu-GA（宮崎県）



礼法極めし柔道

田尻はじめ（新潟県）



Courage and trust

桃太郎（北海道）

入賞



スタート

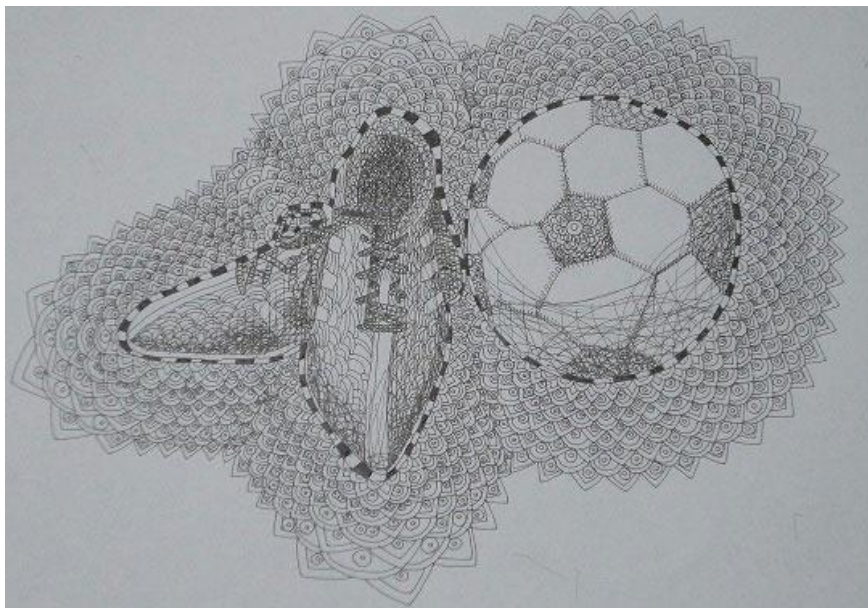
Yuki（大阪府）



なくした先に、夢がある

倉持智行（茨城県）

入賞



フットサル

吉田広子（宮城県）



重力の檻を超えて

吉田年慶（埼玉県）